

授業科目(ナンバリング)	薬物治療学Ⅱ (N4E404)			担当教員	山口 拓		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
薬物治療学Ⅰに引き続き、患者の病態に応じて薬の選択、用法・用量の設定から、適正な医薬品使用のために、代表的な疾患に対する薬物治療の理解を深め、臨床薬剤師として必要な基本的知識を修得することを目的とする。本講義は、薬理学で学んだ各種治療薬の基礎に基づき、薬理・薬剤系教科や病態生理学(疾病学)などの治療学系教科に続く臨床応用(薬物療法)の授業として位置づけられる。							①②③④
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 主要な疾患について、その病因の概略を説明できる。 (2) 治療薬の作用機構や特徴に即して、合理的な薬物療法を説明できる。(3) 疾患の病態に合わせた合理的な薬物療法を判断できる。				小テスト 定期試験	10% 90%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
記述式を中心とした定期試験(筆記試験)の成績を90%として評価する。また、内容の理解度を深めるために、小テストをポートフォリオにて実施し、その成果を10%として評価する。小テストの実施および出題範囲に関しては講義にて事前に案内し、そのフィードバックは講義あるいはポートフォリオにて行う。講義に使用する配布資料に添付された確認問題は復習のための自学自習用として利用し、確認問題そのものは評価の対象としないが、小テストの出題範囲に含める。全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。							
授業の概要							
<p>1. 血液関連疾患(貧血・血栓塞栓症)における薬物治療</p> <p>2. 代謝性疾患(糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)における薬物治療</p> <p>3. 泌尿器疾患における薬物治療 4. 免疫疾患(関節リウマチ)における薬物治療</p> <p>5. 皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)における薬物治療 6. 呼吸器疾患(気管支喘息・COPD)における薬物治療</p> <p>上記の疾患について、最新の治療ガイドライン、臨床で用いられる治療薬の種類(効能・効果)と代表的な処方、薬剤(同種同効薬を中心に)の使い分け、使用上の注意、副作用とその対処法について講義する。また、疾患に関連する新たに上市された最新の治療薬についての医薬品情報も紹介する。教科書、プリント、パワーポイント、動画などを用いて授業を進める。また、内容の理解度を深める授業外学修のために、各項目にて配布した資料に添付された確認問題の解答、医薬品関連情報(新薬情報を含む)および疾患関連情報についてポートフォリオを通じて提供する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書: Visual core pharma 薬物治療学(南山堂)</p> <p>参考書: 今日の治療薬(南江堂)、治療薬マニュアル(医学書院)、薬がみえる vol.1~4 (Medic Media)</p> <p>指定図書: Visual core pharma 薬物治療学(南山堂)、新しい疾患薬理学(南江堂)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
薬物治療学の理解には、疾患に対する知識(疾病学、病態生理学、病理学)、使用薬物に関する知識(薬理学、薬剤学)、薬物動態に関する知識が必要とされる。時には、生化学、機能形態学(生理学、解剖学)などの基礎的な生物学的知識を総動員して理解を深めることも重要である。該当疾患に関連する既習分野(特に生化学、機能形態学、薬理学、疾病学)については授業前に復習しておくことを強く推奨する。また、授業内容に対する積極的な質問を歓迎する。質問がある場合は、基本的に在室中であれば対応可能です(薬学研究棟1階P102)。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	イントロダクション	講義概要と授業方針の説明 最新の医薬品売上ランキングから医療業界の動向を知る	—	573, 589 590, 755
1 2	血液関連疾患 (1)～(2)	(1)貧血における薬物治療の位置づけ、処方、副作用 (2)血栓塞栓症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用、 (3)脳血管疾患における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに血液関連疾患とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく 予習・復習として関連項目に関する既履修科目内容（機能形態学、生化学、疾病学など、特に薬理学）の確認（以下、同様）	610 642 643 645
3 4 5	糖尿病	糖尿病およびその合併症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに糖尿病（合併症も含む）とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	669
6 7	脂質異常症	脂質異常症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに脂質異常症とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	670
8 9	高尿酸血症	高尿酸血症における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに高尿酸血症とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	671
10	泌尿器疾患	泌尿器疾患（特に過活動膀胱、前立腺肥大症、尿崩症）における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに泌尿器疾患（特に過活動膀胱、前立腺肥大症、尿崩症）が記載されている教科書の該当項目を予習しておく	649 675
11 12	免疫疾患	慢性関節リウマチにおける薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに慢性関節リウマチとその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	630
13	皮膚疾患	アトピー性皮膚炎における薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびにアトピー性皮膚炎とその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	622 623 684
14 15	呼吸器疾患	気管支喘息およびCOPDにおける薬物治療の位置づけ、処方、副作用	事前配付資料ならびに気管支喘息・COPDとその治療薬について記載されている教科書の該当項目を予習しておく	655 656
16	定期試験	筆記試験（90分）		

注）上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSB0番号/項目対応表を参照して下さい。